

第89回 仏教公開講座

生きるって ということ

真宗大谷派岐阜教区・岐阜別院

日 時	2011年11月20日(日) 午後6時30分～8時30分	
講 師	荒山 修 氏(名古屋教区恵林寺前任職)	
講 題	『句を得て隣を思う』	
日 程	午後6時30分	真宗宗歌・正信偈(同朋奉讃式)
	6時45分	講 義
	8時15分	質問の時間
	8時30分	恩徳讃・閉会



講師紹介

荒山 修(あらやま おさむ)
名古屋教区恵林寺前任職。
教誨師(名古屋拘置所)、教区内布教。

先生からのメッセージ

永らく永代経に出講してきた寺院に、四字の額装が掲げて二十数名仰ぎみているのですが、年々、歳々、その四字の言葉に、大変深い意味が、身に感じられるのです。書いた人は、頼山陽、書かれている言葉は、『句を得て隣を思う』。『隣』というのは、離れている人ではなく、毎日家族として、共に生活している人、なかでも山陽の妻という感が強い。

句を得てという、正信偈を、一句一句聞思することによって一緒に暮す妻に支えられてきたことを明らかにし妻・子に対し厚く、正信偈をとおして御恩報謝の念佛を申す山陽がみえてくるようです。